

松戸市民児協だより

# 愛の小鳩

2022/1

No.62

編集と発行＝千葉県松戸市民生委員児童委員協議会（松戸市役所地域福祉課 047-366-3019）

〔年2回発行〕

## 心つないで

### 【今号の案内】

- 市長メッセージ
- 部会・委員会・連絡会の活動報告
- 全体研修会
- 地区民児協広報委員報告
- 地区民児協活動状況
- 新型コロナウイルス関係の重要語句
- 編集後記

旧齋藤邸(画像提供:松戸市)

# 市長メッセージ

## コロナ禍における民生委員・児童委員活動

松戸市長 本郷谷 健次



松戸市民生委員・児童委員の皆様、謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活は大きな変化を余儀なくされました。外出の自粛や感染防止対策の徹底など、新しい生活様式が求められる中、民生委員・児童委員の皆様におかれましては、日々献身的にご活動くださっていることにつきまして、深く敬意を表し、心から御礼を申し上げます。

市では、新型コロナウイルス感染症対策を最優先に施策を展開してまいりましたが、感染の拡大防止と社会経済活動の両立を目指す対策が求められる大変困難な局面におかれております。コロナ禍の地域社会においては、新しい生活様式が求められるなど、人と人の関わり合いが希薄になってしまふことにより、社会的孤立が問題とされてまいりました。地域やご家庭、職場といった人々の生活基盤が不安定となる中で、コロナ禍における新たな問題が発生し、様々な支援を必要としている方々が増えている状況でございます。

このような厳しい状況の中、地域の最前線で活動する皆様には、日々感染予防対策で工夫を凝らしていただきながら、様々な相談や、高齢者や子ども達の見守り活動等、地域住民に寄り添う最も身近な存在であり、さらには行政との架け橋として、地域の福祉向上には欠かせることのできない存在であります。皆様は日々、行なってくださいている「おはようございます」「お元氣ですか」といった日常の何気ない挨拶が地域の皆様にとって、とても心強い存在となっていることは想像するに難くありません。これはまさに、「わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます」という民生委員児童委員信条の下、地域住民の立場になって困りごとの相談にのり、地域の支えあいを深めるために日々努められ、信頼を得てくれた皆様であるからこそと確信しております。

加えて、詐欺被害防止のための積極的な普及啓発など幅広く活動いただいておりますが、電話での詐欺被害は未だ多く発生しているということもあり、民生委員・児童委員の皆様が行なってくださる活動はこれまでも増して、より一層大きな使命と役割を担うものと認識いたしております。

市では、今後も関係団体の皆様との連携を図り、地域福祉の向上に努めてまいりますとともに、委員の皆様におかれましては、引き続きお力添えをいただきたくお願い申し上げます。

昨年は、前述した状況の中で開催された東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、松戸市に縁のある選手の皆さんが素晴らしい活躍をされたことは記憶に新しく、皆様にとっても希望に満ちた輝かしい思い出となったことと存じます。

迎えた令和4年が松戸市民生委員・児童委員の皆様にとって明るく朗らかな年となりますよう、そして、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。



【高齢者部会】

部会長 長谷川栄一

各地域からの活動報告によれば、コロナ禍の中で見守り活動には苦勞されているとのことです。対面からインターネット越しや電話利用に変更したものの顔色の確認が取れないことに不安とのことでした。

また当初計画していましたが高齢者施設見学を取りやめ、市のパートナー講座を依頼し、6月は地域共生、10月は高齢者虐待の勉強会を行いました。

【援護部会】

部会長 叶 隆一

昨年はほとんど活動ができませんでしたので、今年は同じではいけないと考え、外部での活動は難しいですが、会議室は借りられますので、講座を主体に部員が学ぶことにしています。部会で学んだことを各地域に持ち帰り、今度は講師となって話をしてくれればと思っています。また部員同士の交流が少しでもできればとグループを作り、月ごとに担当をしてもらうことにしました。

【児童部会】

部会長 近藤 貴子

この一年半は、もっぱら会議室で知識を養う活動に終始。①児童福祉全般、②障がい児の実情と対応法、③児童虐待の現実とを学んだが、私達の役割はいずれも小さな気づきと思いやりのつなぎであるかと再確認。子ども達の現況が見えにくいこのコロナ禍、一月に教育研究所を招きそれを学ぶ予定。今後は得た知識をもとに私達の目と耳と足で実情を把握できる活動に移していきたいと思えます。

# 部会・委員会・連絡会の活動報告

【主任児童委員連絡会】

代表 安達 里季

新型コロナウイルスが拡がり、今までにない生活となりました。これまで考えることもないような実態や閉ざされた生活となり、目に見えない不安・・・私達主任児童委員としてできることは何か・・・と考える日々の中で、それぞれができることを見つげながら活動しております。子ども達の笑顔、皆の笑顔がひろがる毎日になれるように願い、活動を続けて参ります。

【防災・災害対策連絡会】

代表 鈴木 利夫

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が何回も出され、その都度活動が中止になりました。最近、局地的な豪雨が多く発生し、台風並みの被害をもたらしています。幸いなことに松戸市では起きていませんが、備えておく必要があります。災害時には「スマホ」が幅広く情報収集するために必須です。モバイルバッテリーや乾電池式充電器を用意、本当に充電できるか確認が大事です。

【広報委員会】

委員長 山崎 敏子

例年2回のところ昨年は1回しか発行できず、今年も62号のみ。取材などが制限される中、何を取り上げるべきかが最も大きな課題です。編集作業も、対面活動が限られるため時間と手間がかかります。かかる環境下広報委員会では、LINEやメール、郵送などを活用し、工夫を重ねて活動しています。従来とは少し趣が異なる誌面ですが、今後とも「愛の小鳩」をどうぞご愛読ください。

## 松戸市民児協・全体研修会

7月27日（火）13時より、森のホール21大ホールにて、令和3年度全体研修会が開催されました。

1部の松戸市長感謝状贈呈式では、市長挨拶、平川会長挨拶のあと、各地区より推奨された総勢69名に感謝状が贈呈されました。

2部の全体研修では、現在わたしたちが活動するうえで学ぶべき2つの講演がありました。

松戸市医師会が平成27年度より実施の「まちっこプロジェクト」からは、奥隅廣人医師が「皆さんにお伝えしたい感染対策とワクチンのお話（まちっこプロジェクトの取り組みより）」と題し「子どもたちの力で地域はもっと繋がりが合える」その見守りを、と期待されました。

また、岸田雄大医師は「災害時における在宅医療」について話され、地域の「訪問診療登録歯科医院」一覧も配布されました。



## 広報委員が伝える

# 「地区民児協活動」のいま

（「コロナ禍でできたこと、できなかつたこと、  
思ったり気づいたりしたことなど」）



### \*松戸地区\*

コロナ流行以来、活動の様子は大きく変化している。市役所から依頼の調査活動は続けられる一方、対面を伴う見守り、訪問活動ができなくなったのが大きい。訪問に変わり、電話での安否確認やパンフレット配布時の一紙手紙などで細々と連絡を保ち続けるのみとなっている。そのような中、電話でのワクチン接種状況の確認で、ほとんどの方が周囲の手助けを受け、接種を済ませていることがわかり、安心と共に、ご家族、ご近所の大切さ、人との繋りの大切さを教えられた。民生委員活動が、この繋りの手助けになれるように心を込めて続けていこうと思う。



### \*明第一地区\*

私自身、特にコロナ禍中に新たに担当した方への電話での聞き取りが難しかったです。距離を保って声かけした委員によると、予防接種が順調でも先行きへの不安が拭えない様子を一樣に感じたそうで、普段の交流の大切さを感じました。

また「活動についてのDVDを全部観ました」との新任委員の熱心な姿勢や職場で陽性者が出たため活動を自粛し、自己管理に努めた委員の経験にも学びました。

明ワンツースリー（※①）では、参加者の密を避けるため、4月にQRコード付きのポスターを作り、5組限定の予約制開催としました（現在は年内休止としています）。

（※①）明第一、明第二、明第三地区合同で主任児童委員が運営する子育てサロン

### \*明第二地区\*

『新型コロナウイルス感染症』、耳にしない日はない！毎月の定例会、当地区は夜7時から全員が揃い和気あいあいのはずが、会場の都合もあり5時や6時からと早まって全員の出席は難しくなった。思えば、定例会前後の雑談が「宝の山」。実に有意義な情報を得ることができた。点と点の出来事がみごと線で結ばれ、「あっ！そういうことか」とホッとしたり感心したりしたものだ。それが一切なくなり、決まった事を決まったようにサッサと終え、机などを消毒し何かにとりつかれたように引く。何とさみしいことか！早く全員（特に新人さん）揃って楽しくざっくばらんな食事会をしたいものだ。

### \*明第三地区\*

コロナ禍で明第三民児協が工夫した活動を紹介します。

主任児童委員は、乳幼児家庭の孤立を防ぐため、手紙などで相談先を紹介しました。子育て広場を5組限定の会場開催（今は一時中断中）や、ズーム使用のオンライン開催で実施しています。

昨年に引き続き、ふれあい会食会に登録している高齢者に誕生日プレゼントを配布しています。昨年度は

除菌セット、今年はいきいき手帳も同封して配布しています。小学生と高齢者の会食交流会は中止していますが、紙駒のプレゼントは続けています。

### \*明第四地区\*

新型コロナウイルス感染症の影響でこれまで通りの活動ができない中、明第四地区は、基本的感染対策を徹底し時間短縮での定例会が行われています。対面での活動が制限された中、6月に鈴木地区会長からの「コロナワクチン接種予約は取れましたか？」というメッセージを持って、委員みんなで訪問配布しました。地域の皆さまには大変喜んでいただきました。直接会って、話せることの大切さを実感した活動となりました。新型コロナウイルスの収束は、未だに見えませんが、一日でも早く、これまでのような活動ができることを願いつつ、前向きに見守り活動を続けていきたいと思っています。

### \*矢切地区\*

県のガイドラインに即して活動に臨んできたが、母体である地区民児協定例会を含め、訪問活動や幾多の



ふれあい活動が中止・自粛を余儀なくされてきた。

その中で、電話やインターネット越しの声かけ、場合によっては、感染予防対策を十分図っての対面活動も行ってきた。

そして今、これまでできなかった活動も工夫し形を変えて、会食会の受け渡し配食や結婚50年記念の写真撮影の再開、新たに地域の移動手段の困難を改善化するためのプロジェクトの取り組みなど、地域住民の心のつながりを目指した活動に、委員一同、心を一つにしている。

### \*東部地区\*

一年以上続くコロナ禍に伴い、民児協行事・研修の自粛が続く中、当地区民児協は毎月の定例会を感染防止対策の徹底と時間短縮を図って対面での開催を継続しています。

定例会は一時間程度に短縮していますが、多くの委員が会場に早めに来て会議の準備・委員同士での情報交換などをして、時間短縮を感じさせない有意義な時間となっています。また、訪問活動については、感染対策を行っている対面対話のほか、インターネットの通話およびポスティングなどで継続しています。コロナ禍以降は、広報まつど掲載記事および

び市ホームページからの抜粋資料や頂いたチラシなどを訪問の際に活用しています。

### \*馬橋地区\*

馬橋地区の活動は、コロナの昨今、お休みや中止ばかりでした。そんな中、地区会長初め役員の方々がマスクを皆さんに配布する企画を立ててください、距離など、感染予防をしつつ、それぞれ顔を見ながら少しだけ会話をしながらお渡ししました。皆さん、とても喜んでくださいましたが、口々に言われたことは昼食会などのお楽しみが何もなく、淋しいということでした。

こんな時だからこそお役立てを届けて行けたらと強く感じました。形は少し違っても、皆さんの笑顔と元気が少し増えるようなやり方を考えていけたら良いと思っています。一日も早くコロナが収束することを祈らずにはられません。

### \*馬橋西地区\*



馬橋西地区は、16町会・自治会に分割され22名の民生委員・児童委員が活動しています。コロナ前は、毎

月のふれあい会食会や子育て支援への協力、小学校・中学校・高等学校との交流、さらには夏休み期間中の防犯パトロールなどで地域連携に力を注いで来ました。コロナ禍においての活動は、ひとり暮らしの高齢者宅へは電話や玄関先でインターネットでの安否確認を実施しています。また、今年の猛暑では熱中症予防啓発を実施し、巣籠もり生活への見守り支援を強化しました。

「一日も早く、元の生活に戻りたい!!」これは、みんなの願いです。

### \*新松戸地区\*



従来から地区社協、町会、自治会との協同活動は盛んでしたが、現在大半の事業が縮小・見合わせとなっています。当地区では、コロナで現在中止となっている地区社協ふれあい会食会の補完事業として、配食サービスを昨夏から定期的に実施しています。また、配食ルートを活用し、利用者間の伝言板も始めました。

一方最近の中小マンションは、オートロックだったり自治会組織もなかったりで、住民の様子を把握することが非常に難しくなっています。

戸建て・アパートも含めて地域の眼が届きにくい世帯への支援のあり方が課題です。

### \*高木地区\*

拙宅の近所は戸建て住宅の多い地域ですが、そのほぼ半数近くが空き家が高齢者世帯となります。その多くは生活に支障は無いようですが、病気や歩行などが困難な状態の方も少なくありません。コロナ禍もありますが、どうしても家の中に引きこもりがちになってしまいます。考えてみれば一定地域で住宅開発が進み、そこに特定の世代が居住すれば、当然のことながらある年齢層が偏在することになります。なにやら過疎地域の限界集落を思わせます。そのため最近では戸別訪問などの高齢者の見守り活動が多くなってきました。

### \*常盤平地区\*

我々の地区民児協定例会では、常々会長より新生活様式ガイドラインに沿って安全に活動するよう指導されており、対面による場合には全委員が感染対策に十二分に注意を払い活動を実施しています。

結果的に対面による見守りより通知・連絡文や電話・メールでの活動が中心になっているようです。

しかしながら高齢者にとってはフ  
 レイル予防のため散歩(外出)され  
 る方も多く、街中でお会いする機会  
 もあります。その際にはマスク着用  
 ソーシャルディスタンスに注意しな  
 がら、見守りにつながるような情報  
 交換を心がけています。

**\*常盤平団地地区\***

常盤平団地では高齢化が進み、団  
 地包括センターやケアマネジャー  
 さんとの連携が今まで以上に多くな  
 って来ております。洗濯物が何日も  
 干しっぱなしだったとかいろいろ情  
 報が入ってきます。そのため電話で  
 の安否確認、夜電気がついているか  
 どうかの確認、見回りなど、多々有  
 ります。ワクチン接種済みかの確認  
 もできる限りしております。

ワクチン接種が済んでもコロナと  
 共存、「ウィズコロナ」の重要性を  
 政府も訴えております。新規感染者  
 が無症状か軽症に抑えられていくこ  
 とでしようが、これからは高齢化の  
 対応も含めて、幅広い対応が求めら  
 れていくことでしょう。



**\*五香地区\***

一、コロナ下の五香地区区定例会

定例会は中止、月1回同日に  
 半数ごとの2回実施を経て、現在  
 は全員参加で月1回・各人2m離  
 れて短時間で開催しています。事  
 例研究時間が短くなるのが悩みです。

二、いち民生委員・児童委員の思い

1.. 民生委員法第一条などの趣旨

「住民の実情を知り、その立場  
 に立つ」ことが我々委員の本来  
 の役割だと思っています。

2.. 健康で本来の役割を果たしてこ  
 そ、地元広報になると思います。

3.. コロナ後の委員の在り方の  
 基本もこの第一条などに回帰  
 することにあると考えます。

**\*六実地区\***

一昨年来、コロナウイルスの蔓延  
 により私たちの生活は脅かされ、人  
 との関わりや接触が抑制されてしま  
 した。六実民児協は感染対策をとり  
 つつ定例会・部会を開催しておりま  
 す。地区研修会で出前講座を依頼し  
 て、私たちの知見・識見の向上を図  
 り、地区の情報などを共有して活動  
 に役立てています。

地域交流会のイベントとして、社  
 協や子ども食堂などと連携してキッ  
 チンカーを提供しました。高齢者や

**・児童委員」活動風景**



六実地区:「キッチンカー」による配食サービス  
 民生委員など支援



東部地区:「高塚新田自治会災対部と民生委員」  
 による避難行動要支援者対応の打合せ



小金北部地区: 地区内2カ所で食料無料配布



小金南部地区: 協力関係にある  
 地域の「小金ほのほの食堂」  
 来場者にマスクをプレゼント

児童たちの見守り活動で、対面が難しい場合は電話などの方法をとっています。以前に比べ、活動が見えにくくなっていますが、地域状況に沿った民生委員・児童委員活動を進めております。

**\*小金北部地区\***

小金北部地区では、独居高齢者を対象に会食会を行ってきましたが、新型コロナウイルスで会食ができなくなったため、それに代わるものとして食料頒布会を行いました。

対象を「生活が苦しい方」に変え、子育て世帯にも対応することになりました。お知らせは学校の協力を得て、小中学校へ全戸配布、町会の掲示板を利用していただきました。会場は地区内の高低差が大きいため、上下に分けて2カ所に設けました。農家やNPOの協力を得て合計100世帯分を用意しましたが、開始後1時間弱で終了してしまいました。

**\*小金南部地区\***

令和2年4月、高齢者のご家族から死亡・入所の連絡が相次ぎ、地区内の状況把握に不安を感じ、高齢者支援連絡委員と一緒に毎月の見守りを再開しました。

令和3年3月、小金南部地区民児

協では、「マスク50枚入り1箱を持参しての安否確認事業」を企画し、委員24名で約250世帯の訪問を行い、その結果、地区の見守り対象者の方々との対話、包括との連携を一層とることができました。

私は広報委員として、コロナ禍の中で委員がどのように訪問活動をしているのか、アンケートを4月に実施し、6月定例会で結果報告をしました。地域状況を共有でき、見守り活動の大切さを再確認しました。

**\*小金原地区\***

今年度も行事の中止や活動制限が続く中、私は気持ちの上でも民生委員の役から遠ざかる感覚になり、独居高齢者宅訪問の折、むしろゆっくり話を聞くようにしてみました。その中で、個々人の心情や生活上の要望により深く触れることができ、同じ地域住民として、また民生委員という信頼を置かれる立場として、小さな声が聞け、埋もれがちなニーズを掘り起こすことができるという当り前のことに気づきました。

定例会では、空き時間で以前より活発な意見交換がされています。各委員の経験や疑問を共有し、問題解決への道を皆で模索し続ける民児協であって欲しいと思います。

.....**コロナ禍での「民生委員**



常盤平地区：中止となっていた社協の会食会を弁当配食で再開



高木地区：「ときわ平こども食堂」民生委員などにより毎月開催



東部地区：地区定例会において「認知症」出前研修の実施。写真は講師と委員のデモンストレーション



新松戸地区：地区社協会食会登録会員への配食サービスに協力（定期実施）

# 新型コロナウイルス感染症の用語集

## ①パンデミック

「パンデミック」とは、感染症や伝染病が世界的に大流行する状態を指します。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）については、2020年3月、世界保健機関（WHO）のテドロス事務局長がパンデミックとみなすと表明しました。

## ②クラスター

小規模な感染者の集団を「クラスター」と呼びます。クルーズ船やナイトクラブなどで発生した例が報道されましたが、狭い空間に大勢の人が集まっていたが、長く過ごしていると、その中にウイルスに感染している人がいた場合、他の人にも感染させ、クラスターが発生しやすくなります。

## ③濃厚接触者

新型コロナウイルスに感染した患者に、「発症2日前から」「1m程度の距離で」「マスクをせずに」接触し、「15分以上の会話をした」人を指します。濃厚接触者と判断されると、感染拡大防止のため、保健所から2週間の自宅待機を求められます。

## ④PCR検査

体液の中にあるウイルスの遺伝子を

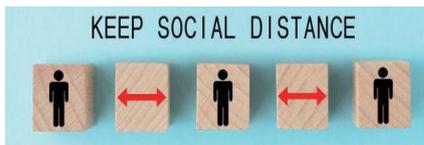
検知する検査です。新型コロナウイルスの検査では、鼻の奥に長い綿棒を入れて粘液を採取します。検査の結果が陽性なら感染、陰性なら感染していないと判断されますが、検査のタイミングによっては十分な数のウイルスを採取できず、正確に判断できないこともあります。

## ⑤3密

新型コロナウイルス感染症が発生しやすい条件、つまり「密閉」「密集」「密接」な3つの場面を指します。「密閉」はカラオケボックスなど換気の悪い場所、「密集」はテーマパークなど大勢の人が集まって混んでいる場所、「密接」は立ち話や合唱など間近での会話や発声が当てはまります。

## ⑥ソーシャル・ディスタンス

感染症の拡大を防ぐため、人と人との物理的距離を保つこと。例えば「スーパールのレジに並びときは、前の人との間隔を空ける」「レジやカウンターの透明の仕切りを設置する」などの対策が実施されています。



## ⑦集団免疫

ある感染症に対して、地域の人口のうち大部分の人が免疫を獲得すれば、

その地域での流行は広がらず、感染症の拡大が収まっていくという考え方です。集団免疫を獲得するには、自然に感染する人が増えた結果そうなるのと、ワクチンを打つことで免疫を獲得した人を増やす方法があります。スウェーデンでは、外出禁止などの厳しい制限を設けずに、緩やかに集団免疫を獲得しようという独自の対策がとられていました。

## ⑧デルタ株

インドで発見された感染力が強い変異株。感染者から排出されるウイルスの量が多く、ウイルスの排出期間も長い傾向があるとされ、感染すると重症化のリスクが高いと指摘されています。欧州や米国で急増し、国内でも従来のウイルスからデルタ株への置き換わりが進んでいます。

## ⑨ラムダ株

ペルーで報告された変異株です。くわしい性質はまだわかっていませんが、南米を中心に広がり、国内でも2021年7月に羽田空港の検疫所で感染者が確認されました。

## ⑩職域接種

企業や大学などで行う接種で、従業員や学生などその組織に属する人たちが受けることができます。

\* 「新型コロナウイルス感染症に関する10の用語集」  
横浜弘明寺呼吸器内科・内科クリニックHPより



民児協全体研修会の受付風景



コロナ感染対策の徹底!!

## 編集後記

令和3年も新型コロナウイルスの感染拡大により、民児協の各種行事が制限されたり、中止に追い込まれたりしました。広報委員会も対面の会議が縮小され、メールやLINEなどのSNSを使って内容の調整・検討をした結果、前年に引き続き今年1回の発行にこぎつきました。

編集をとおして、現場での委員の皆様が見守り活動や子ども食堂開催など脈々と続けられ、被支援者への手を休めなかったことをうかがい知ることができました。民生委員としての仕事に誇りを感じます。(S)